

[認知症対応型共同生活介護用]

(別紙4)

1. 評価結果概要表

作成日 平成 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104082		
法人名	社会福祉法人きしゅう福祉会		
事業所名	グループホームささゆり		
所在地	和歌山市田尻496-4 (電話) 073-474-2290		
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会		
所在地	和歌山市太田421-1 駅前東ビル4階F室		
訪問調査日	平成20年11月29日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	7月	1日			
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	17人	常勤	9人,	非常勤	8人,	常勤換算	9.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て、外壁ヘーベル 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有(円)		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300000円)		有りの場合 償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり	950	円			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	0名	女性	17名	
要介護1	2名	要介護2		2名		
要介護3	7名	要介護4		5名		
要介護5	1名	要支援2		0名		
年齢	平均	85.9歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嶋内科医院、片山歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長夫妻の介護体験から「ささゆり」の花に寄せた、型にはめられない個別的な介護を目指した「和信思」の理念を作り上げている。まさにまごころのこもった手作りのグループホームと言える。主要道路からのアクセスも良く、玄関先は色とりどりの花が咲いていたり、また犬が飼育されているなど、大変入っていきやすいムードにあふれている。経営者と管理者は大変強い信頼関係で結ばれており、非常に頼もしい介護が実践されているものと感じることが出来る。現場スタッフも大変優しく暖かみのある対応が入居者に対してなされており、好感が持てる。そのため、入居者は大変落ち着いた様子で過ごしており、ひとりひとりのペースや思いが大切にされた生活が実現している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全ての職員が自己評価、外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。例えば前回の指摘事項の毎食後の口腔ケアはすでにきちんと行われている。外部評価を非常に積極的に受け止めており、「大変勉強になった。今回も色々教えてほしい」などの前向きな姿勢がうかがえる。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>上記同様、自己評価に対する取組みも非常に積極的である。職員間でも日常的に話し合われ、活用されている。自己評価や外部評価を「もっと頻繁にやっても」との積極的な姿勢もうかがえる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に近接住民、家族、地域包括支援センターの職員等に出席してもらい開催されている。グループホームの活動内容や評価への取組み状況について報告や要望等を話しあい、サービスの向上に活かしている。会議では参加者の意見が出やすいように、何気ない日常会話からスタートさせるなどの工夫が凝らされている。この会議を活用し、積極的に運営に役立てようとする姿勢は高く評価できる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月家族に「ささゆり便り」を郵送し、入居者の暮らしぶりや活動内容などを報告している。その際は出納帳の写しも同封し、金銭管理について明らかにしている。家族との電話でのやり取りは、前後で行き違いのないよう、確認ノートを活用している。経営者、管理者、現場スタッフの全てが家族との連携を大変重要視していることは高く評価できる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に地域のごみ置き場の置き場の清掃を行ったり、中学生の職場体験を受け付けたりしている。また、保育園の行事的訪問や日常的に「ちょっと寄る」ことも徐々に増えている。併設のデイサービスのカラオケルームは入居者と地域の方の交流の場となっている。地域との連携の大切さがグループホーム内で共有されていることは高く評価できる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長夫妻の介護体験から「ささゆり」の花に寄せた、型にはめられない個別的な介護を目指した「和信思」の理念—和＝グループで輪になって、信＝信念を持って介護を实践、思＝優しい気持ちで接する—の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が十分に共有され、実践に活かされるよう、玄関先の見やすいところに掲示するとともに、会議等の場で常に職員に対し管理者から話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に地域のごみ置き場の置き場の清掃を行ったり、中学生の職場体験を受け付けたりしている。また、保育園の行事的訪問や日常的に「ちょっと寄る」ことも徐々に増えている。併設のデイサービスのカラオケルームは入居者と地域の方との交流の場となっている。地域へのチラシ配りが功を奏している。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が自己評価、外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。例えば前回の指摘事項の毎食後の口腔ケアはすでにきちんとして行われている。自己評価、外部評価について「もっと頻繁にやっても」との積極的な姿勢もうかがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に近接住民、家族、地域包括支援センターの職員等にも出席してもらい開催されている。グループホームの活動内容や評価への取り組み状況について報告や要望等を話しあい、サービスの向上に活かしている。会議では参加者の意見が出やすいように、何気ない日常会話からスタートさせるなどの工夫が凝らされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要なことは随時地域包括支援センターへ相談をし、連携に努めている。	○	さらに市との連携をはかりたいとの積極的な姿勢が見られる。本庁や支所へ運営推進会議の会議録を届ける等の工夫などにより、このホームの取り組みについてお知らせする機会作りへと発展させたいという希望が表明された。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に「ささゆり便り」を郵送し、入居者の暮らしぶりや活動内容などを報告している。その際は出納帳の写しも同封し、金銭管理について明らかにしている。健康状態については、その都度個人的に報告している。家族との電話でのやり取りは、前後で行き違いのないよう、確認ノートを活用している。現場スタッフも家族の訪問の際は積極的に関わりを持っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議で意見・要望・不満・苦情が話し合える機会を設けている。また事務所前に和歌山県運営適正化委員会のパンフレットを置いている。	○	意見箱は設置されているが、何も入らない状態が続いている。「事務所前だから入れられないのではないか。今後は外に設置していきたい」との方針が表明された。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が保たれるよう日頃よりユニット間の連携を密にして一体的なケアを行っている。また、離職を必要最小限度に抑えることが出来るよう、「ものが言いやすい」職場の雰囲気を経営者や管理者が率先して作り出している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者は職員育成の計画を立て、段階に応じて様々な研修を受講させている。また、事業所に来た研修案内等は告知ボードに貼り出して希望を募ったりしている。その後の伝達研修は内容によって随時実施されている。研修の際の経費は事業所が負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に積極的に参加し、地域の同業者と交流する機会を持っている。また他のグループホームへの見学やあいさつ等も積極的に行うようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時はなるべく本人にも見学に来ていただいて納得を得るようにしている。また入居時には生活歴を詳細に聞き取りセンター方式を活用して、介護のヒントにしている。従来から併設のデイサービスを利用していた方へは、入居後も必要に応じて「逆デイ」（グループホーム利用者のデイサービス利用）を提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は「家族の一員」とし、時間を共有しながら喜怒哀楽を共にしている。掃除、調理、洗濯、シーツ交換等の家事は出来るだけ一緒に行うようにしている。入居者による出勤する職員の出迎えがあったり、職員の子どもが来た時には入居者の大きな喜びが見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の発した思いや要望は、目の前でメモをとるなどして、「言ったのに聞いてくれていなかった」とならないように工夫している。食事の嗜好、外出行事、趣味活動、ヘアスタイル等の希望には出来るだけこたえるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントには積極的にセンター方式が活用されており、「みんなで」「少しずつ」取り組まれている。サービス担当者会議には主治医の出席が得られることもあり、健康管理上必要な数値等（体重コントロール、糖尿病）に関し指示を受けられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書1・2表は入居時には3か月目に、その後は半年に一度は見直しを行っている。もちろん特別に変化のあった際は随時アセスメントを実施しプラン表へ追加記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	花見や紅葉狩り、外食、温泉、運動会等の外出行事に積極的に取り組まれている。入居者の希望する通院にもなるべく対応するようにしている。入居者による急な通院や買い物等の希望にも出来るだけ早急に応じることが出来るよう、心掛けられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望した場合、なじみの医療機関を利用し続けることが出来るようにしている。グループホームが契約している医師は認知症への理解が深く、様々な相談に乗ってもらうことが可能な状況となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書に従ってグループホームで出来ることと出来ないことの話をしている。重度化の状況に合わせて家族や医師、職員間で話し合いを進めながら同意を得て、対応・支援をしている。	○	終末期の介護については経験がないため、不安が大きい。また医療行為が必要な際にも困難な状況が予想される。「勉強を積んで、せつかくここで一緒に過ごした入居者のために出来るだけ対応したい」との積極的な姿勢が表明された。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者を傷つけたり不穏にさせる声かけを慎むよう普段から話し合いを行っており、現場でそのような状況があった際にはお互いに注意しあうようにしている。オムツはそれを使っていることが分からないような配慮の上保管したりしている。個人情報については様々な取り組みの工夫にて厳重に扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭であることの意識を大切にしているため、特に決まったスケジュールを立てることもなく過ごすようにしている。「今日は天気が良いので散歩を」などとすることも多い。入居者の目の届くところにぬり絵や計算ドリル、歌詞カードなどを置いておき、自主的に入居者のペースで楽しめるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れながら敷地内の畑で作った旬の野菜を使って季節感を演出している。調理や準備、後片付け等は入居者も楽しく参加できるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から夕食までの間で、入居者一人ひとりのペースに合わせてなるべくゆっくりと入れるよう配慮している。また、シャワーのみで良いとする入居者にはそのような対応も柔軟に行っている。医師の指示にて短時間での入浴となっている入居者への対応もきちんと行っている。ゆず湯、菖蒲湯等の楽しみも取り入れる工夫がなされている。	○	夜間入浴については直接的な希望が入居者からないこともあり、また、人員配置上も困難であることから検討されていない。今後は入居者の希望や状況に応じて、夜間入浴の実施も期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホーム内で一人ひとりが楽しみ事や出番を見いだせるよう、場面作りを積極的に行っている。特に飼育している犬の世話には複数の入居者が積極的に関わっており、えさやりや散歩の際の同行等が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がグループホームの中だけで過ごすことのないよう、積極的に近所に出かけて楽しむようにしている。買い物、通院、散歩等の外出の機会は徐々にその頻度を増しつつある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者や家族に心理的圧迫をもたらさないよう、出来るだけ玄関は鍵をかけずに開放している。入居者の出て行く気配を見逃さず、決して無理に止めたりはしない。さりげなく声をかけたり、一緒に近所を回る等の柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に2回消防・避難訓練を実施しており、それぞれ日勤帯と夜勤帯、出火場所等を想定して綿密に行っている。救命救急の研修にも積極的に参加している。運営推進会議では地域の人と災害時の避難場所の確認などを行っている。非常用の水の備蓄も怠っていない。	○	AEDについて調査員より助言すると、導入したいとの積極的な姿勢が表明された。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者が脱水症状になりやすいことを職員に周知しており、体調不良時には水分摂取チェック表を活用している。入居者一人ひとりの食事摂取量、バイタルサイン、排泄の様子等が一覧で見られる様式の表が使われており、健康管理上の対応がきちんとなされている。	○	入居者一人ひとりの摂取カロリーや、水分摂取量、栄養バランスは一日全体を通じておおよその把握となっている。特に水分摂取量については、もう少し細かな把握を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の調度や設備、物品や装飾にはいずれも一般家庭で使用しているものを使っている。ホームは全体的に天井が高く、明るく暖かい。ムードにあふれている。ホーム内には木がふんだんに使われ、その色合いやその他の設備とのコーディネートも大変良いセンスである。四季の花を玄関やフロアに飾るなど、季節感の演出にも余念がない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で本人や家族と相談しながら、なるべくなじみのある家具や置き物、テレビ等を持ち込んでもらうようにしている。入居者一人ひとりの趣味や楽しみが居室の中ででもできるような工夫が施されている。（居室で作品作成に打ち込んで、美術展に出展した例もある）	○	じゅうたんが敷かれ温かみのある雰囲気作りがなされている。しかし、じゅうたんの下に入居者の足が入ると転倒の危険性が高まるため、固定する等の工夫を行っていきたい旨、方針の表明があった。

※  は、重点項目。